

ハートツリー

フロンティアジャパン

服部進 & 額賀泰尾

少しでも復興の役に立ちたい——その想いを胸に
間伐材を起爆剤に、南三陸で新たな雇用創造を
展開するふたり。彼らが目指す大きな夢とは？

Text by Fukashi Yasutake 文・安武不可止
Photographs by Shigeyasu Gushima 写真・具嶋成保



“東京の若者にこの南三陸に
“出稼ぎ”に来てもらうのが夢”

間伐。育ちの悪い木を切り、残った木々に十分な陽光と風通しを確保、病虫害から守る。国土の7割が森林という日本で、林業発展のために考えられた先人たちの知恵であった。間伐をすれば当然、間伐材と呼ばれる材が産まれる。一見不要と思えるこの間伐材に新たな命を吹き込もうと奮闘する、ふたりの男がいる。

服部進45歳、大手企業でマーケティングを学び、林業の再生に必要なものは、市場を創造することと話すプロデューサー。額賀泰尾40歳、若くして起業した物創りのプロ。日本初の木製ノベルティといわれる、檜のマグネットを製作した。このふたつの才能は早くに出会ってはいしたが、交差することはなかったという。ビジネスベースで発想する男と、商品のクオリティにこだわる男。ふたりの間には大きな溝があったのだ。

それを結びつけたのは皮肉にも東日本大震災であった。

同じ日本人として何かしなければと考えたふたりは、雇用の創出という復興の原点にたどり着く。人は働かなければ幸せにはなれないのだと。ここでふたりの歩みが重なり合った。額賀氏は宮城の間伐材を使った商品を開発、服部氏はその商品の市場開拓にと奔走する日々が始まった。

単に間伐材というだけなら日本中どこにも存在する。ただ、彼らふたりがあくまでこだわった被災地の間伐材、そこにはふたりの復興にかけると熱い想いが込められている。額賀氏は物創りのため、南三陸に居を構えた。廃校となった小学校の校舎を借り、工房も開いた。そこで創られる商品を持って、今日も服部氏は全国を飛び回っている。

ふたりにこれからの夢を尋ねてみた。すると南三陸に間伐材を加工する、1000人規模の工場を造ることだと答える。そして東京の若者に東北に、この南三陸の地に出稼ぎに来てほしいと笑う。

彼らが歩き始めた道程が、

平坦であるはずもない。ただその先に、間違いなく希望の光が射してもいる。

昼食に南三陸町の仮設商店街でふたりと食べた「南三陸キラキラ丼」が心に沁みだ。



南三陸の工房で作った「東北新幹線E5系 はやぶさ」特製ピンバッジを抽選で50名様にプレゼントします。

ご希望の方は、郵便はがきに①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号、⑤[大人の休日倶楽部]会員番号(Mから始まる7ケタ)をご記入のうえ、ご応募ください。【宛先】〒150-8508 (株)ジェイアール東日本企画「大人の休日倶楽部」ミドル6月号 はやぶさピンバッジ プレゼント係 ※宛先の住所の記載は不要です。【締切】6月20日(水)消印有効

※賞品の発送は7月中旬頃となります。※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。※ご記入いただいた個人情報は、当選者への商品の発送のためにのみ使用させていただきます。

Yasuo Nukaga(写真右)

1971年生まれ。フロンティアジャパン株式会社代表取締役社長。国産間伐材の有用性を認め、外來材を一切使用しない企業向けノベルティ製造の先駆者となる。震災後、「目に見える支援」の考えから即断で現地に工房を設立。雇用創造の一助となるべく、草の根の活動を目指す。

Susumu Hattori(写真左)

1967年生まれ。ハートツリー株式会社代表取締役。J-Tで医薬部外品・清涼飲料水の商品企画・マーケティング等を担当。その後、インターネットプロモーション等の会社を経て大塚製薬へ。新製品「SOYJOY」のブランドマネージャー等を経験。07年ハートツリー設立。